

## 3.11 いわて 文化復興支援フォーラム

東日本大震災から 7 年目を迎える今年。被災した方々や、被災地に寄り添う方々から短歌を募集しました。寄せられた作品の中から数篇を、短歌朗詠劇として上演します。

第一部 いわて震災詩歌 2018 優秀作品授賞式  
朗読劇～公募震災短歌から～

第二部 ディスカッション  
「文化芸術の市民参加とコミュニティ形成」

日時 2018 年 3 月 11 日  
開演 13:30 (開場 13:00)

場所 もりおか町家物語館 浜藤ホール

入場料 無料 (要予約)

定員 80 名

\*入場希望の方は「お名前」「ご連絡先」を下記  
申込先までご連絡ください。

《申込・問合せ》(特非) いわてアートサポートセンター  
TEL/019-604-9020 Mail/kaze@iwate-arts.jp

したまち小劇場祭  
2018



## 鉈屋町界隈イベント情報

### 盛岡弁で語る

### “下町のお花ばあちゃん”の昔ばなしっこ


2018 年 3 月 10 日 (土) 13:30 より  
大慈清水御休み処 (盛岡市鉈屋町 3-15)

ホッコラと懐かしい故郷の訛り。

目を閉じると懐かしの風景と物語の世界が現れる。

語り：花田陽子 演目：「石割桜」ほか **参加無料**

問合せ：大慈清水御休み処 TEL.019-622-8989

したまち小劇場祭  
2018



発行者 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

#### 【本部】

〒020-0874 盛岡市南大通 1 丁目 15-7 南大通ビル 3 階  
TEL (019)656-8145 FAX (019)656-8146  
E-mail info@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp

#### 【肴町事務所・風のスタジオ】

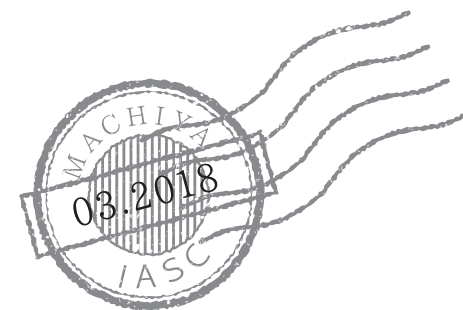
〒020-0878 盛岡市肴町 4-20 永卯ビル 3 階  
TEL (019)604-9020 FAX (019)604-9021  
E-mail kaze@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp  
〈窓口営業時間〉火・水・金 10:00~18:30 木・土 10:00~17:00  
〈施設利用可能時間〉9:30~21:30

#### 【もりおか町家物語館】

〒020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町 10-8  
TEL (019)654-2911 FAX (019)654-2913  
E-mail machiya@iwate-arts.jp URL http://machiya.iwate-arts.jp  
〈開館時間〉9:00~19:00 (最終入館 18:30) ※浜藤ホールのみ利用時は 21:30 まで  
〈休館日〉毎月第 4 火曜 (休日の場合はその翌日) - 年末年始 12/29 ~ 1/3  
〈入館料〉無料 ※一部企画展は有料の場合があります。

#### ◎プレイガイドをご利用下さい!

肴町事務所・風のスタジオ窓口と、もりおか町家物語館案内所には、プレイガイドを設置しております。販売手数料 5% (消費税込み) で、イベントチケットをお預かりしています。直接ご来館のうえ、職員にお声がけください。



## もりおか町家・風の通信

### 3 月号

## 『おさかな絵画展』開催中!

宮古の子どもたちが田老公民館に集まって、地元宮古の海でとれたさまざまなおさかなをべたべた触ったり、じっくり観察したり、ひとりひとりが自由にめのまえのおさかなを画用紙に描きました。2日間の美術ワークショップで完成させた個性あふれる絵画の数々を展示しています。

ぜひお気軽にお越しください。お待ちしております。

【日程】3月10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日) オープン時間は、全日 13:00 ~ 17:00 です。

【場所】kenzi コ lab

(ワークショップ講師・小林健司さんの絵画工作教室/宮古市上鼻 1-4-6)

《主催・お問合せ》(特非) いわてアートサポートセンター  
TEL/019-604-9020 Mail/kaze@iwate-arts.jp



もりおか町家物語館 母屋・常居に雛人形を展示中  
「盛岡町家旧暦の雛祭り」(4/14・15) まで



はまとうぶるほんいち

# 浜藤古本市

日時・2018年3月24日(土) / 25日(日)  
11:00-16:00

場所・もりおか町家物語館 浜藤の酒蔵

公募で集まった、古本や自主制作本を販売する個人・グループが出店します。本を通じた交流や掘り出し物探しなど、お気軽にご来場ください。



主催 盛岡市、(特非) いわてアートサポートセンター  
問合せ もりおか町家物語館 TEL019-654-2911

## 雛祭りクラシックコンサート

地域の年中行事として親しまれている

～盛岡町家 旧暦の雛祭り～

「お雛祭り」の優雅で晴れやかな雰囲気と「春」の訪れの喜びを、いわてフィルハーモニーのフルート奏者・村野井友菜と、ピアノ奏者・井上彩花による二人の演奏で、ゆったりとお楽しみください♪

日時 4月15日(日)  
開演 13:30 (開場 13:00)

場所 もりおか町家物語館 浜藤ホール

入場料 一般 前売 1,500円

学生・シニア 前売 1,300円

※当日券各300円増 ※全席自由  
※雛祭り通行手形をご提示された方には、当日受付にて500円お返しいたします。

主催 盛岡市、(特非) いわてアートサポートセンター  
問合せ もりおか町家物語館 TEL019-654-2911

### 大正蔵1階「時空の商店街」冬季営業時間終了のお知らせ

大正蔵1階「時空の商店街」は、3月31日まで冬季営業時間(10:00~17:00)となっておりますが、4月1日から通常営業時間(9:00~18:30)に戻ります。

## 町家の雪あかり～わん！ダブル2018～

今回の町家の雪あかりは、戌年にちなみ「町家の雪あかり～わん！ダブル2018～」と題し、犬の雪像を制作しました。また、浜藤の酒蔵のライトアップ、約200個の雪あかりキャンドルなど、雰囲気ある夜の町家を楽しんでもらえたのではないのでしょうか。犬の帽子をかぶり雪像と一緒に記念撮影をする子ども達の姿が印象的でした。素敵な冬の思い出になったかな？！



## 管楽器の学校～金管楽器編～

管楽器の学校～金管楽器編～を初開催しました。いわてブリティッシュオーケストラの佐々木駿さん、長田桜咲さん、吉原美輪子さん、牛渡克之さんに出演いただき、親子で管楽器に親しみ、自ら「音楽をする」体験型のイベントとして実施しました。わかりやすい曲を中心にし、楽器演奏体験なども織り込んだ内容となりました。特に、吹奏楽を志す子どもたちにとっては貴重な機会となったようです。



## カフェ DOMA

くさなぎももえ

### 草薨桃江 作陶展「イロトリドリ」

3月3日(土)～3月25日(日)

秋田を拠点に「練り込み陶芸」の制作をおこなう草薨桃江の作品を展示します。

### ★新メニュー★

パスタはじめました!

(ナポリタン、他)

¥650

お飲物とセットで50円引き

営業 11:00-16:00 定休 毎週火・水曜日

※営業時間外も、施設開館中は見学可能です。

※臨時休業の場合もございます。営業時間はホームページ等でご確認ください。

## リレーコラム No.23 3.11 いわて文化復興支援フォーラム

怠惰を極めた高校生活も終わり、あと数日で大学進学のために念願の上京を果たさんとするその矢先にあの東日本大震災は起こってしまった。寝転がって「ミヤネ屋」を観ていると、突然の突き上げるような揺れのあと画面の宮根さんが真っ暗になり、「あ、宮根、消えた、停電」と母親が呟いて(ちなみにこの母親も寝転がって「ミヤネ屋」を観ていた)、止まる気配のない揺れに二人で怯えながら玄関先まで辿り着き、18歳の僕は45歳の母と気づけば無意識のうちに手を握り合っていた。永遠に終わらないのではないかと二人を不安にさせた揺れもようやく止まり、天変地異の余韻の中で僕は以下のような疑問を抱いた。

「なぜ僕は母親と手を繋いでいるのだろう。そして、なぜちょっと安心しているのだろう。」

2011年3月11日、その日は我が故郷東北にとって、「理不尽な受難に苦しみながらも明日からの確かな再生に向けて歩み出した」という意味で、後の世代に語り継がれるべき大切な記念日である。そして僕にとっても、「自分がどうやら潜在的にマザコンであるらしいということに気づけた」という意味で、それはそれで大切な記念日となった。

しかし、どうだろう。今一度皆さんに考えていただきたい。果たして僕は本当にマザコンだろうか。「成人近い男が母の手のひらの温もりに安心してた」という事実のみを切り取ればそれはれっきとした一人前のマザコンと言われても致し方ない。しかしあの状況下である。人の温もり、やさしさ、自分はひとりではないという確信に少しでも触れたいとあの瞬間誰もが思ったのではないだろうか。そして「自分はひとりではない」と確信するとき、やはり頭に浮かぶのは「家族」であり、自分を生んでくれた「母親」その人である。

震度7のゆりかごに乗って、あの日、日本中が母の手のひらの温もりを求めていたのだ。

あれから7年目の3.11、「いわて文化復興支援フォーラム」を開催する。被災地に寄り添う方々から「震災短歌」を募り、寄せられた作品の中から数篇を短歌朗詠劇として上演する。また、県内外のゲストを招いて「文化芸術の市民参加とコミュニティ形成」をテーマにディスカッションも行う。

あの日皆が求めた「温もり」で会場中をいっぱいにしたい。「自分はひとりではない」と確信できる時間になればと願っている。

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター  
事務局員 藤原 瑞基